

「地域の財産（たから）と人々が織りなす活性化」

能登半島の先端に位置する珠洲市において、過疎化、少子高齢化に歯止めをかけるため、経済を活性化し、産業の振興を図ることが最大の課題です。その取り組みが少しずつではありますが、「かたち」になってまいりました。

まず、市内の廃校舎を活用し金沢大学と連携して進めてまいりました「里山里海自然学校」が、三井物産環境基金や文部科学省の科学技術振興調整費事業により、金沢大学と石川県立大学、そして奥能登の2市2町が連携し「里山マイスター養成講座」という本格的なカリキュラムをスタートさせるまでに発展いたしました。素晴らしい自然の中で、次世代の環境型農林水産業を軸とした人材育成と人材交流が図られることは、本市の基盤である農林水産業のレベルアップのみならず、イメージの向上と地域のブランド化につながります。

また、体験交流をコーディネートする「NPO 能登すずなり」が官民一体となって発足いたしましたし、厚生労働省のご協力をいただき、本市の産業経済7団体と県、市が連携し取り組む「地域雇用創造推進事業」が内閣府の地域再生計画事業として動き始めました。

おかげさまで、市内各地に、自分達の地域は自分達で良くしようと自ら努力をされている方々が大勢いらっしゃいます。特に本市の豊かな「食」を活かした取り組みが多く、こうした取り組みを結び付け、行政が支援することで、交流人口の拡大と農林水産物の高付加価値化のみならず、新たな産業の創出と経済全体の活性化につながると考えています。

高齢化が進んでいることから、この10年が正念場であり、行政と市民が共働りし、一つ一つの施策を絡め、広げていくことで、少しでも早く成果をあげたいと考えています。